

授業科目等の概要

(医療専門課程歯科衛生科) 令和2年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			統計学	統計学は、大量のデータを論理の仕組みを持って分析し、法則性を見出し、それらを解釈し、意思決定に役立てることができる。授業では、抽出された資料を分類・整理し特性値を求めるなどして母集団を推測する。また、仮説の検定についても学んでいく。	1前	15	1	○			○			○		
○			情報科学	目的：情報機器を使い、指導用媒体を作成する能力を養う。到達目標：適切な指導用媒体を作成することができる。	1後	30	2	○			○				○	
○			発達心理学	人間は一生涯を通して変化していくものである。臨床でさまざまな対象者に柔軟に対応するために、各発達段階の特徴を理解する。	1前	30	2	○			○				○	
○			歯科英語	日本語を母国語としない患者に対しても、医療従事者として意思疎通をはかれるよう、また発展を続ける歯科医学に対して英語文献を介した接触ができるよう、基礎的な知識(医療英単語・会話など)の習得に努める。	1前	15	1	○			○			○		
○			医療倫理	歯科診療の流れと歯科臨床科目を概略的に学習する。	1前	30	2	○			○			○		
○			コミュニケーション論	医療人を目指す1歩として、他者とのコミュニケーション能力、スキル、メンタルを考える。	1前	30	2	○			○			○		
○			解剖学	歯科臨床における解剖学の重要性を認識し、人体を構成する骨・筋、生命活動に必要な各器官系の構造と機能を理解する。	1通	30	2	○			○				○	
○			生理学	生命現象並びに生体機能のしくみを理解することができる。医療従事者として、歯科衛生士が取得しておかなければならない人体生理反応に関する知識を習得する。	1前	30	2	○			○				○	
○			口腔機能解剖学	細胞の構造と機能、口腔諸器官の構造、頭頸部に存在する骨・筋の種類と作用、口腔付近の脈管系と分布部位、歯の発生とその微細構造および永久歯・乳歯の形態的特徴などを理解する。	1通	75	5	○			○				○	
○			病理学	歯科医学の基礎となる病理学の重要性を認識し、歯科衛生士として必要な知識を学習し、理解を深める。	1後	30	2	○			○			○		
○			微生物学	歯科医学の基礎となる微生物学の重要性を認識し、歯科衛生士として必要な知識を学習し、理解を深める。	1前	30	2	○			○			○		

○		薬理学	歯科医学の基礎となる薬理学の重要性を認識し、歯科衛生士として必要な知識を学習し、理解を深める。	1 前	30	2	○			○		○		
○		口腔衛生学	口腔の健康を保持増進させる理論と方法を理解し、口腔疾患の予防法を習得する。	1 通	60	4	○			○			○	
○		公衆衛生学	衛生学の知識を地域保健において果たすべき役割を学ぶ。	1 前	30	2	○			○			○	
○		衛生行政学	歯科衛生士として必要な衛生行政の基本知識を学習し、業務に反映できるよう理解を深める。	1 前	30	2	○			○			○	
○		社会福祉学	歯科衛生士として必要な医療保険制度・社会福祉制度の基本知識を学習し、業務に反映できるよう理解を深める。	1 後	15	1	○			○			○	
○		歯科衛生士総論	歯科衛生士の意義・役割・使命について理解するために、歯科の歴史の変遷と歯科衛生士を取り巻く社会的背景、歯科衛生士の業務について修得する。	1 前	30	2	○			○			○	
○		保存修復学	歯科保存学の概要を教え、その診療補助の能力を目的とする。	1 後	15	1	○			○			○	
○		歯内療法学	齶蝕が進行して歯髄や根尖歯周組織に病変がおこった場合の診断法と治療法である歯内療法学の概念を知り、基本的知識を習得する。	1 後	15	1	○			○			○	
○		歯周療法学	歯周疾患患者に対する歯科衛生業務の重要性を認識し、歯周医学・治療・予防法などに対する理解を深める。	1 後	15	1	○			○			○	
○		歯科補綴学	円滑な診療補助を行うために歯科補綴治療に関する基礎的な知識を習得する。	1 後	15	1	○			○			○	
○		歯科矯正学	歯科矯正の概要を理解し、円滑な歯科矯正の補助ならびに介助に必要な知識を学ぶ。	1 後	15	1	○			○			○	
○		口腔外科学	口腔における顎・口腔粘膜疾患に関する病態や治療法、各種麻酔法について知り、歯科衛生士として適切に対応できるよう理解を深める。	1 後	15	1	○			○			○	
○		小児歯科学	成長過程にある小児を対象とする本学問の特殊性を認識し、小児の歯科治療や予防法などに対する理解を深める。	1 後	15	1	○			○			○	
○		歯科口腔放射線学	歯科臨床における放射線の基本的知識を学び、歯科衛生士として適切に対応できるよう理解を深める。	1 後	15	1	○			○			○	

○		高齢者歯科論	高齢社会における歯科医療の現状と将来展望について説明する。	2通	30	2	○			○		○		
○		障害者歯科論	通常の歯科保健・歯科治療への適応に困難を伴っている障害者（スペシャルニーズのある人）を対象に、歯科診療を中心として、スペシャルニーズのある人に対して行われるべき歯科保健と歯科治療に関する基本的な知識と技術を学ぶ。	2通	15	1	○			○		○		
○		摂食・嚥下リハビリテーション	摂食嚥下機能の基本を理解し、摂食嚥下障害に対するリハビリテーションについて、実際の症例も含めて学ぶ。同時に、高齢者の口腔ケア等、要介護高齢者に対するの歯科衛生士としての役割も学ぶ。	3通	30	2	○			○				○
○		歯科予防処置論Ⅰ	講義・実習を通して、歯科予防処置等の業務に関する、しっかりした手技の訓練、生体に対する配慮ができるように知識および技術を学ばせ、理解させる。	1通	90	2				○	○			○
○		歯周予防処置論Ⅱ	歯科予防処置の概要を知ることにより、歯科衛生士が行う専門的な業務内容を学び、歯科疾患の予防方法を説明できることを目的とする。	2通	270	6				○	○			○
○		保健指導論Ⅰ	歯科医学の基礎となる生化学の重要性を認識し、歯科衛生士として必要な知識を学習し、理解を深める。	1通	135	3				○	○			○
○		保健指導論Ⅱ	歯科衛生過程をすすめていく上で必要となる知識と技術を身につけるとともに実際に歯科衛生診断、計画立案、評価等、歯科衛生過程に必要な能力を身につける。	2前	90	2				○	○			○
○		栄養指導論Ⅰ	歯科医学の基礎となる生化学の重要性を認識し、歯科衛生士として必要な知識を学習し、理解を深める。	1前	15	1	○				○			○
○		栄養指導論Ⅱ	栄養素の基礎知識、食生活と健康、現代の食生活の問題点さらに栄養指導の実践について学ぶ。また、望ましい食生活習慣の実践ができるよう、栄養学の基本的な考え方・理論を理解する。	2前	30	2	○				○			○
○		歯科診療補助論Ⅰ	歯科診療補助に関する知識を会得し、歯科診療補助を行うにあたっては、その内容を具体的に理解し、診療の流れにそって活動するために自分自身の置かれた立場をわきまえ、業務に対する責任感をもつために学ぶ。	1通	90	2				○	○			○
○		歯科診療補助論Ⅱ	様々なライフステージにおける高度歯科医療に対応するために、専門的な歯科診療の補助に関する基礎的知識、技術及び態度を身につける。	2通	270	6				○	○			○
○		歯科診療補助論Ⅲ	様々なライフステージにおける高度歯科医療に対応するために、専門的な歯科診療の補助に関する応用的知識、技術及び態度を身につける。	3前	45	1				○	○			○
○		臨地実習Ⅰ	ライフステージごとの歯科保健指導能力を養うための手段として保育園・幼稚園・小学校・中学校等において歯口清掃指導の実習を行う。また、口腔保健センターにおいては心身障害者の歯科診療見学を行うことにより障害者や有病者に対する理解を深める。	2通	135	3				○		○	○	○
○		臨地実習Ⅱ	病院での入院患者様や、重度の知的障害や重症心身障害のある方が利用される社会福祉施設での口腔ケアを通して、医療人としての資質を高める。	3通	135	3				○		○	○	○

○		臨床実習Ⅰ	歯科診療所における歯科衛生士の役割を理解し、円滑に診療補助並びに直接対面行為をすることができる能力を身につける。	2後	90	2				○	○	○	○	
○		臨床実習Ⅱ	歯科診療所における歯科衛生士の役割を理解し、円滑に診療補助並びに直接対面行為をすることができる能力をさらに身につける。	3通	540	12				○	○	○	○	
○		卒業研究	文献調査を通じて自分の問題発見能力と解決能力を養う。また、医療従事者となる将来に向けての基礎作りをおこなう。	3前	30	1			○	○	○			
○		基本技術実習	1年次で修得した歯科に関する知識・技術・態度を基盤として、臨床に応用できる実践力を身につける。事例を用い、歯科衛生アセスメント～歯科衛生評価に至るまで、歯科衛生過程の実践を学ぶ。	2前	45	1				○	○	○		
○		事例演習Ⅰ	実習を通じて関わった症例を報告し、報告を通じて、状況把握力と問題点の把握力を養い、症例についての対応の仕方を学ぶ。	2前	30	1			○	○	○			
○		事例演習Ⅱ	臨地実習及び臨床実習を通じて関わった症例を報告し、報告を通じて、状況把握力と問題点の把握力を養い、症例についての対応の仕方を学ぶ。	3前	30	1			○	○	○			
○		総合演習Ⅰ	これまでに学習した知識のまとめを目的とした授業を行う。授業は過去の国家試験問題を題材として、学生諸君自らによる解答と解説の作成を中心に進めていく。	3前	30	1			○	○	○			
○		総合演習Ⅱ	これまでに学習した知識のまとめを目的とした授業を行う。授業は過去の国家試験問題を題材として、基礎を中心に進めていく。	3後	30	1			○	○	○			
○		総合演習Ⅲ	これまでに学習した知識のまとめを目的とした授業を行う。授業は過去の国家試験問題を題材として、応用問題を中心に進めていく。	3後	60	2			○	○	○			
合計					48科目			2,925単位時間(102単位)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：本校に3年以上在籍し、全科目を履修し認定を受けること。		1学年の学期区分	2期
履修方法：履修単位制。授業科目を履修して試験に合格すれば科目認定を与えら (留意事項)		1学期の授業期間	18週

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。